

平成26年9月8日（月）

○議長（石橋英和君）順番4、6番 小西君。

〔6番（小西政宏君）登壇〕

○6番（小西政宏君）6番 小西政宏です。今回質問させていただきますのは、事業を始める起業支援と林間地区におけるスーパーについてでございます。

それでは議長にお許しをいただきましたので、通告に従い、一般質問をさせていただきます。

まずは一つ目、人口減少問題、また人口流出問題の対策として、橋本市では企業誘致などに取り組まれています。企業誘致と同時に、事業を始める起業支援も大切ではないかと考えております。6月定例会で17番先輩議員からも一般質問がありましたが、現在橋本市で行われている起業支援を教えてください。

大きく二つ目、林間地区スーパーについてでございます。6月定例会で2番の先輩議員からも質問がありましたオークワ林間店が8月18日に閉店しました。これは、林間地区に住まれる住民にとっては本当に大きな問題であると思っております。林間地区の住民の方々からは依然、スーパー、店舗を希望する声が多いとともに、いろいろなうわさ、また憶測が後を絶ちませんが、その後の進捗状況をお教えてください。

以上、こちらからの質問とさせていただきます。ご答弁のほう、よろしく願いいたします。

○議長（石橋英和君）6番 小西君の質問項目1、起業支援に関する質問に対する答弁を求めます。

経済部長。

〔経済部長（笠原英治君）登壇〕

○経済部長（笠原英治君）起業支援についてお答えします。

現在、本市が行っている起業支援施策は、前回の6月議会で17番議員からの質問にもお答えしましたが、市内に事業所を開業する際の開業資金として、和歌山県中小企業融資制度の新規開業支援資金を利用された方に対して、支払った信用保証料の一部を補助する制度があります。

また、商工団体で操業に関する手続き等について、必要書類の書き方等の相談を行っていますので、その事前相談や情報提供を行っているところです。

これ以外にも、和歌山県では、県外から移住し、地域資源を活用して起業する方々に対し補助金で支援する施策を実施しており、本市では制度の情報提供、県との連絡調整に努めております。

次に、農業部門では、就農時45歳未満の新規就農者に対し、就農不安定期間の所得保持のため、年間150万円の給付金を最長5年間支援する国の制度を活用できるよう、本市では新規就農希望者の相談を受けており、本年度になってからも数名の方が相談に来られ、現時点で3名の給付が決定しています。

起業支援等に関して、本市ではさらに「地場産業の振興による地域経済活性化と雇用拡大を図り、元気なまちづくりに取り組む」ことを市長の重点施策と位置付けていることから、新産業の創出や新商品開発、地場産品・特産品のブランド化に取り組んでいく意欲のある農業者、事業者、起業家に対する支援を積極的に行っていきたいと考えています。

このたび、9月議会で提案しております「橋

本市産業振興基金条例を一部改正する条例」は、市長の公約であるこれらの支援を行っていくための原資となる産業振興基金を整備するものです。基金原資の充実には、現在ある約1,000万円の基金に加え、ふるさと納税寄附金を拡充し、備えたいと考えています。

なお、産業振興基金を活用した本市の産業支援制度については、今後、事業支援交付要綱を整備し、具現化してまいります。

○議長（石橋英和君）6番 小西君、再質問ありますか。

6番 小西君。

○6番（小西政宏君）ご答弁いただき本当にありがとうございます。

今教えていただきましたとおり、橋本市ではさまざまな支援というのをさせていただいていると思います。その中で、市長の公約でもあるように、地場産品を重点施策、ブランド化をするといったような、本当に地域に合った起業支援といいますか、そういったものに力を入れていただいていると私自身も考えてはおります。

そういった中で、私がなぜこれを今回質問させていただきましたかといいますと、本当に若い世代からの声ではあるんですが、やっぱり企業誘致と一緒に、この橋本市が好きだから橋本市で仕事がしたい、そういう声もやっぱりあるんですね。そういった中で、起業もしたいんだけど不安もあるというような声だったり、また、ある子に関しては、将来何がしたいんだということに関して、起業、自分で事業を起こすというようなことすらも視野にない子ももちろんいらっしゃいます。

そういった中で、これだけたくさんの政策、本市でしていただいているにもかかわらず、そういったのがやっぱり若い世代にはどうしても伝わりにくいのではないかと僕は考えているんです。私はそう考えてはおるんです

が、本市の見解のほうはどういった感じでしょうか。お願いいたします。

○議長（石橋英和君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）ただ今の質問にお答えします。

若い人が起業しようとする状況づくりは、決してお金や事務所など、物質的なものの支援だけではないというふうに考えております。そういうものというのは比較的一過性のもになって、持続性がないと思います。基本的に、商売とか事業というのは、これは自助努力やと思っております。本人に頑張ろうという意識、信念があるかという部分が一番大切になるんでないかと考えてます。

どの時代の世代もそうなんですけど、良い面もあれば少し苦手な面もあると思います。団塊の世代から私たちの世代、さらに40代の世代が学生時代、社会に出た頃は、高度成長、公共投資によるインフラ整備、しばらく続いていたインフレ経済など、世間が本当に大きくめまぐるしく変わってきました。ちょっと油断しているとどんどん置いていかれるような、そういう感がありました。

しかし、ここ20年ほどの間というのは、ほとんど物価も変わりませんし、給料もあまり変わらず、特別なIT関連の企業だけが何か特殊な感もありました。そういう時代環境で育ってきた若い世代の方というのは、比較的あまり他人と争ってまで人より秀でた状況、環境を望まない人が若干多いように感じております。普通に生活、平均的な生活ができれば、それで十分やというふうに感じられ、突出した成功を特に望んでないようにも考えられます。決してそれが悪いことではないと思います。平和的で協調的で順応性があるとも言えるんですけど、ただ、そういったところが、若者の起業が少ない一因になっておるのではないかというふうに、そういうふうに考

察しております。

以上です。

○議長（石橋英和君）6番 小西君。

○6番（小西政宏君）答弁いただきありがとうございます。

本当に今、経済部長が言っていたように、僕も言いたかったんですけども、本当にお金を出すだけが起業支援ではないと、僕も考えているんです。

そういった中で、今ご答弁いただきましたように、すごく平和的で争いなく普通に生活が、普通にと言ったら、またちょっと語弊があるかもしれないですけど、できたらいいというような若者が多いというのは、実は僕自身も考えてはいてるんです。それは悪いことではないんですけども、これから橋本市、自分の好きなまちで生きていくための手段としては、やはりその意識を変えていくようなことも大切ではないのかなと。

先ほどもお話させていただいたように、公務員になりたいとか、会社員になりたい、いろいろあると思うんですけど、その選択肢の中に、起業するというふうな、そういったことが必要だと思ってるんですね。で、先ほどもお話あったように、各商工団体とかでセミナーとか、またその起業の相談とかも本当にあると思うんですけど、どうしても個々の団体、個々の団体で出しているから、情報が入りにくいというのが一つの原因でもあるのかなとは思ってるんです。

で、ちょっと思ったんですけども、その各商工団体と、もちろん本市のほうは連携して、そうやって情報交換とかしていただいていると思うんですけど、それを一回集約を市のほうでしていただいて、本当にこうやって1個の紙にまとめていただくような、ステップ1、起業に関心を持ってもらうセミナーから始まって、起業を決意する、また最終的には起業

への準備、要は起業をして、その起業の後の、起業努力ももちろんあるんですけども、その後もお話を聞いていくというような、そういった一貫性のある起業支援のプロセスの支援の仕方も、本市としては対応できないかなと考えるはおるんですけども、その辺、どうでしょうか。ご意見いただきたいと思います。

○議長（石橋英和君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）8月末の日経新聞やったと思うんですけど、経済産業省が起業を増やすため、これは必ずしも若年層とは限らんのですが、来年度2015年度に、新たに約50億円の予算を追加要求するというふうに決めたというふうな発表がありました。内容は、有望な起業家を海外へ派遣したり、事業を起すための教育を全国の学校、これ、具体的に言うと中学校と書かれておったんですけど、若いうちから実施して、興味を持たせていく、そういう取り組みの支援をしていくというふうに書かれておりました。政府は、開業率を現在の2倍に引き上げていくんやという目標も立てております。

先ほど、橋本市が中心になってそういったところを進めていけるようにと、これはまた国からのそういった指導もあるし、当然そういうことは行っていきたいと思っておるんですけど、起業もそうなんですけど、行政が先頭に立つケースって往々にしてうまくいかないケースが私は多いと思っております。この地域、そういう事業者が自立して主体的に活動を進めないと、決してそういったことにつながっていかないと思います。行政はどっちかという、住民がそういうことをやっていきたい、中心的な立場を担ってもらえるようにしむけていくとか、しかけていく、そういう必要があろうと考えております。

以上です。

○議長（石橋英和君）6番 小西君。

○6番（小西政宏君）ご答弁いただきありがとうございます。

おっしゃるとおり、行政で進めていくと、結構難しい点多々あるのかなというのは僕自身もわかるんですけども、僕がお話させていただいたのは、行政でセミナーをする、行政でそういった相談を積極的にするのではなくて、各商工団体とかがしていることを行政でもっと発信を、情報発信をまとめてしていただく、今でも十分していただいているのは本当にご存じなんですけど、今、ホームページ、フェイスブック等々でも、橋本市、すごい力を入れていただいていると思っております。そんなんもやっぱり駆使していただいて、情報発信をしていただけたらなと思っております。

本当に、僕の同級生はじめ大阪のほうへ出ていく方がほとんどなんですけども、話すると、いや、橋本におれるんやったらおきたかったよ、仕事があってできるんやったら本当に橋本でおきたかったと。もちろん、市長の娘さんと僕、同級生ですけども、最近あまり見ないんですけども、やっぱりそういった気持ち、この橋本市の子どもたちには持っていてほしい教育のもとで育てていただいているのに、これを生かしていけないのはもったいないなと本当に思っておりますので、そういった点でも、また考えて力を入れていただけたらなと思っております。

また、自分自身も若手の議員が全国で400名以上集まる、そういった会などで、全国でいろいろネットワークが持っております。そういった中でも、本当に先進事例だったり、そういったものをもっともって僕自身も勉強して、これからまた持って帰ってきたいと思っておりますので、また今後ともよろしく願います。

これで一つ目の質問を終わらせていただきます。

○議長（石橋英和君）次に、質問項目2、林間地区スーパーに関する質問に対する答弁を求めます。

経済部長。

〔経済部長（笠原英治君）登壇〕

○経済部長（笠原英治君）林間地区スーパーについてお答えします。

現在、本市では旧オークワ橋本林間店の撤退後、できるだけ空白期間が生じないように新たな事業者の誘致を所有権者をお願いしています。所有権者においても地元要望を理解した上で、食料品を取り扱う業者の誘致に努力していると聞いております。

しかし、今のところ、事業者を決定した情報は得られていません。民間事業者の繊細な交渉案件であることから、行政の立場で過剰な介入がかえって市民にご迷惑をおかけすることのないよう、状況を見て慎重にかかわってまいりたいと考えています。

なお、旧オークワ橋本林間店の商業圏域であった地域の皆さまの買い物支援策として、冷蔵車両を利用した移動販売を、株式会社松源が8月26日から三石地区の5箇所試験販売を実施しております。

当店の商業圏域であったほかの地区での実施は少し調整が遅れていますが、市民生活への影響をできる限り最小限とするよう、移動販売の拡充と継続に関して一層本市も事業者へ働きかけていきますので、ご理解いただけますようお願い申し上げます。

○議長（石橋英和君）6番 小西君、再質問ありますか。

6番 小西君。

○6番（小西政宏君）ご答弁いただきありがとうございます。

今、説明していただきましたように、今の

ところスーパーは決まっていないということでお聞きしました。

そういった中で、もちろん事業所の方、もちろん本市のほうも、本当に積極的に頑張っていていただいて、本当に買い物できない期間が短い中で移動販売のほう、来ていただいたことには私自身も本当に感謝しております。住民の方からもそれはお聞きはしております。

そういった中で、私自身も先日、移動販売のほうを一度見に行ってきました。正直、感想としましては、思っていた以上に品数も多いですし、また、商品の値段に関しても店頭よりも安くしているものもあるというような、そういった事業所の努力、地域のためにこれはやりたいのというふうな努力をされているというのも、私自身お聞きしております。

その一方で、住民の方々、もちろん移動販売でも仕方ないよと言ってくれる方もいらっしゃるんですけども、ほんまに今後どうなっていくんやと。本当に不安だと。移動販売だけでは、三石台だけでも5,000人ぐらい住んでおる中で、やっぱり不安があると。その辺を早急にどないかならないんかということ、本当に僕もよく、話をすればオークワの話というぐらい、やっぱり皆さんは考えておるみたいなんですけど、今現状、移動販売で対応しておりますが、私はこのままではやっぱり限界があるんじゃないかと考えております。再三になりますが、やっぱり早急にスーパーが本市としても必要であるのかどうか、もちろん必要なんだろうけども、その辺、もう一度お聞きさせていただきます。お願いいたします。

○議長（石橋英和君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）ただ今の質問にお答えします。

オークワの後、実はオークワのほうにも積極的に継続していくように、市長とともにお

願いに上がっていったわけなんですけど、前回の6月議会にもお答えさせていただいたとおり、なかなか継続していくのは難しいという形で今に至っておるわけなんですけど、その後、地権者がいて、その信託会社があって、実際営業される方、その三者の間で非常に繊細な協議をされておりますので、あまり私ところ、行政がかかわっていくと、せっかくの話がだめになってしまうと。これは本当に市民の願いがかえってかなわんことになってまいりますので、その部分については誠に申しわけないんですが、現時点では慎重にやっていきたいと考えておりますので、どうぞご理解をお願いします。

○議長（石橋英和君）6番 小西君。

○6番（小西政宏君）答弁いただきありがとうございます。

今、おっしゃっていただいたように、確かに民民のことでもありますので、行政のかかわり方というのは難しいところもあるとは思っております。しかし、スーパーのあり方自身、やっぱり考えていくことってすごく大事なのかなと思いますのは、スーパーの形だけで、林間地区の全体の形は大きく変わっていくんじゃないかと。

僕は三石台でずっと若いとき暮らしていたんですけど、やはり、もともとは駅前の商業施設フォレストにスーパーがあって、時代もありますけども、そのとき本当にフォレストがにぎわってたのを僕は覚えております。その後、林間のオークワができたことによって、お客さまがやっぱり大きなほうへ流れていく中で、地元の企業が入っているフォレストというのは本当に衰退していったという経緯もある中で、やっぱりスーパーがどういった形であるのが望ましいのか。また、それがあることによって林間地区全体の、もちろん橋本市の中で人口もすごく多く住んでらっしゃる

ところでありますし、南海線の電車に関しても急行で唯一とまる二つのうちの一つの駅でもある。本当に大事な、全て大事なんですけど、特に林間地区というのは大事なかなと思っっている中で、そうですね、橋本市の林間地区の新たな形といいますのも、今あるスーパーに、形は決まってないとは思いますが、今あるスーパーに仮に事業所が入っていただいたとしても、今の規模で入っていただいたとしても、また結局10年後、20年後には時代の流れとともに、これとまた同じ議論が起こるのではないかとこのところを私は危惧しておるんです。

その辺、見えないところで難しいとは思いますが、林間地区全体としての橋本市としてのビジョンといいますか、その辺を一度お聞かせください。お願いいたします。

○議長（石橋英和君）企画部長。

○企画部長（北山茂樹君）これは、17番議員の質問と同じような話になるかと思えます。現在つくってある長期総合計画の本地域の将来の都市構造といいますか、それは、林間田園都市駅周辺というのは地域生活拠点として地域特性を生かしつつ、商業、業務、文化、居住等の諸機能の集積を図ることが構想として上げられております。

それからまた、都市計画マスタープランの中でも、当地域につきましては、日常生活利便施設の充実など、地域の顔として魅力と利便性の高い市街地環境を形成する必要があるということも、マスタープランのほうでうたわれております。

現状の商業施設を言いますと、広大な駐車場を有する郊外型の複合商業施設というのが、今はその主流になっておるんですけども、林間田園都市駅前につきましては、将来的に国道371号がやはり整備されていきますし、それから京奈和自動車道も平成27年には和歌山ま

で、それから平成28年には奈良県御所市までということで、御所工区が完成するというところで、非常に交通の拠点になっていくであろうということを考えておりますので、具体的にどうのこうのするという事ではないですけども、次期橋本市の長期総合計画、平成30年に新たな総合計画を策定するんですけども、その中では、何らかの全体構想的なものをつくっていかねばならないなということに考えております。具体的に現在のところ、詳細にお答えすることはできません。

以上でございます。

○議長（石橋英和君）6番 小西君。

○6番（小西政宏君）答弁いただきありがとうございます。

確かに、今すぐ現状でスーパーがどうなっていくかわからないという中で、具体的に答弁いただくというのは難しいかなというのも私もわかる中で、ただ、民のことですので、再々になりますけども、どこまで行政がタッチできるかわからないですけど、やっぱりこれから目先のことは、もう含めて、未来のことも含めて、10年後、20年後、考えてほしいっていただきたいかなと思っております。また同じ議論になってしまうと、また一緒のことですので、考えていただけたらと思っております。

本当に三石台地区、また紀見北地区の住民の方に関しては、本当に生活にかかわってくる問題ですので、今後とも積極的に力を入れていていただきたいと思っております。私もまた林間地区の件については、力を入れていきたいと思っております。住みやすいまちになるために頑張っていきたいと思っておりますので、ともに一緒になってご協力のほう、今後ともよろしくお願いいたします。

これで私の一般質問を終わりたいと思いません。ありがとうございます。

○議長（石橋英和君） 6番 小西君の一般質問は終わりました。

（午後2時7分 休憩）

この際、午後2時25分まで休憩いたします。